

社 会

1 はじめに

(1) 生徒の実態から

生徒たちは概ね落ち着いており、前向きに学習に取り組んでいる。日頃から世の中の出来事に関心をもってもらいたいために、定期テストの中に時事問題を出題したり授業の中でも積極的にニュースを取り上げてきたことにより、社会的な事象についての興味・関心を持つ生徒が増え、中には教師が知らない内容を紹介する生徒も若干ながら見受けられる。

社会的な事象への興味・関心は高いが、社会的な事象を様々な角度から見たり・考察したりする力が足りず、資料を活用して調べることについては、読み取った内容を関連づけて自分の考えをまとめる力が不足している生徒が多いので、資料を多面的に読み取る力を育てることが課題である。そして、基礎・基本の定着を図るための手立て（小テストなど）については改善が必要であると考えている。

(2) 教科の役割と特性から

21世紀は新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなどの知識そのものや人材をめぐり国際競争力を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性が増してきている。このような状況において、確かな学力などを重視する「生きる力」を育むことがますます重要になっている。

OECD（経済開発協力機構）のPIISA調査などの各種の調査から、①思考力・判断力・表現力などを問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題についての課題、②読解力で成績分布の分散が拡大しており、その背景には家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題が見られるとある。

社会科で特に留意すべきこととして、知識基盤社会化やグローバル化が進む時代にあるから今こそ、世界や日本に関する基礎的教養を培い、国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することである。そのためには、基礎的・基本的な知識、技能の習得に努めるとともに、思考力・判断力・表現力などを確実に育むため言語活動の充実を図り、社会参画に関する学習を重視することが必要であると考えられる。

2 研究内容

(1) 『「学ぶ力」の育成をめざして』 ～「よないの学び」のサイクルを通して～

・ 「学ぶ力」の育成

「学ぶ力」の意味を、「学ぶ意欲と意志を持ち、学ぶ喜びを味わいながら学び続ける力」ととらえた。生徒にこの「学び続ける力」をつけさせるには、生徒自ら主体的に学び追究しながら、自分の考えを積極的に発信・交流することにより、新しいアイデアを生み出したり個性的・創造的に判断・行動することができるようにし

なければならないと考えている。

新しい学習指導要領でも、「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。」と示しており、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視する必要がある。1単位時間あるいは数単位時間の中で「課題把握→予想→追究→交流→まとめ」といった流れを通して、習得・活用を活かした学習活動を展開したい。

- ・ 「よないの学び」のサイクル

学習活動の中で、生徒が一度学習しただけで内容をきちんと理解できるわけではない。それらをより確かなものにしていくためには、同じものを何度も書いたり、問題を解いたりすることを通して理解を深めていくことが必要である。

そこで、予習・授業・復習というサイクルをつくり繰り返し学習を行うことで理解が深まると考えた。

また、家庭での予習や復習をすることで授業の理解が深くなり、学習意欲が高まり、授業への意欲へと結びつくであろうと考えた。

そのサイクルを活かすために、家庭学習については年間指導計画や単元指導計画に従って出すことにした。ここで留意したことは、家庭学習をやっこないと授業が分からないというようにはしないという点である。提示した家庭学習の内容や量が生徒にとって適切かどうかについては今後も検討を重ねていかなければならない。

(2) 研究の具体

ア 授業と家庭学習のサイクル

① 予習・授業・復習のサイクル

予習の家庭学習としては、教科書の重要語句を自分でまとめてくること、次の時間に学習するところの教科書を読んてくるなどを課題とした。

復習としては、学習プリント、ワーク問題などを課題とした。

家庭学習は、授業での理解を深めることができるような内容を準備し、それを授業の中で活かせるようにした。

② 小テスト

授業で学習した内容（小单元ごとや大单元ごと）をもとに、5問から10問のテストを行い、基礎・基本の定着を目指した。

イ その他

① 定期テスト予想問題の活用

学習した内容をもとに学習委員会で取り組んでいる予想問題を作成し、テストに出題した。委員会活動と授業や宿題を意図的に連動させることで、生徒の学習意欲を高めるように工夫した。

			ることに気づかせたい。
終 末 5 分	6 本時のまとめ	6 本時のまとめをする 【技能・表現】	○江戸時代には身分制度が確立し、それぞれの身分が自分の仕事を持って生活していた。中でも、農民は藩や幕府の財政を支えていた。

(2) 前時に与えた家庭学習

宿 題

番 氏名

1 江戸時代の身分制度のもとになったのは、豊臣秀吉が行った政策によるものでした。農民から刀ややりなどの武器をとりあげたことを何といたしましたか。

2 秀吉が田畑の面積や石高、工作者などを調べた政策を何というか。

3 1, 2の政策を通して、農民と武士との区別がついた()が進んだ。
()にあてはまる言葉を書きなさい。

4 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 次の時間に学習する内容に関する課題を家庭学習の中に取り入れたことにより、家庭学習に取り組む生徒が増えた。
- ・ 生徒の興味を引くような資料提示を行うことで、生徒たちが積極的に学ぶようになった。

(2) 課題

- ・ 教師側からの説明が多くなってしまい、生徒に考える時間の保証が足りないために考えを深めることができず、生徒間の意見交流が十分になされていない。教師側がきちんと時間を確保する。
- ・ 家庭学習のチェックに時間がかかってしまい授業時間が少なくなってしまうので、効率よく家庭学習を確認する方法をどうしていくか。